(19)日本国特許庁(JP)　**(12)登録実用新案公報(U)**　(11)登録番号
実用新案登録第3250781号
(U3250781)

(45)発行日　令和7年3月31日(2025.3.31)　(24)登録日　令和7年3月21日(2025.3.21)

(51)国際特許分類　　FI

B65D 23/00 (2006.01)	B65D	23/00	C
B65D 35/44 (2006.01)	B65D	35/44	
A47G 19/22 (2006.01)	A47G	19/22	D

評価書の請求　未請求　請求項の数　10　OL　（全13頁）

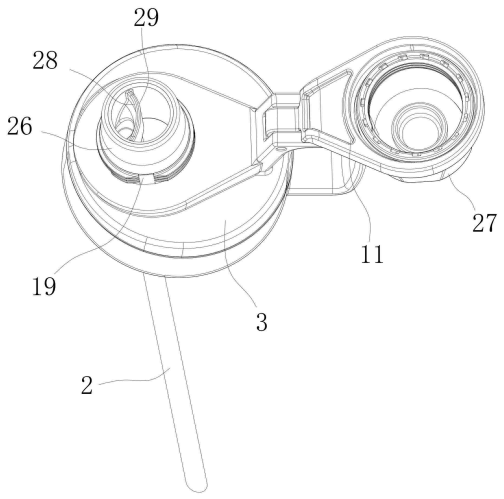
(21)出願番号　実願2024-4361(U2024-4361)
(22)出願日　令和6年12月25日(2024.12.25)
(31)優先権主張番号　202422887641.5
(32)優先日　令和6年11月26日(2024.11.26)
(33)優先権主張国・地域又は機関
中国(CN)

(73)実用新案権者　521419282
武義泰祺碩杯業有限公司
WUYI TACHISO DRINKWARE CORPORATION
中国浙江省金華市武義県白洋街道白洋工業功能区沈宅村牡丹 南路２０号
NO. 20, MUDAN SOUTH ROAD, SHENZHAI VILLAGE, BAIYANG INDUSTRIAL FUNCTION ZONE, BAIYANG STREET, WUYI COUNTY, JINHUA CITY, ZHEJIANG PROVINCE, China
(74)代理人　100180482

最終頁に続く

(54)【考案の名称】　回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ

(57)【要約】　（修正有）
【課題】構造が簡単で、飲みノズルを回転させることによって直飲口と吸飲口の位置を変えて飲みモードを切り替え、より快適な飲用体験に繋がる、蓋とカップを提供する。
【解決手段】回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップは、飲みノズル２６付き出水口が設けられるカップ蓋本体３と上蓋体を備え、飲みノズルには第１飲水通路と、ストロー２に接続するための第２飲水通路が仕切られて形成され、第１飲水通路の頂部に直飲口２９が形成され、第２飲水通路の頂部に吸飲口２８が形成され、上蓋体は直飲口と吸飲口を閉鎖するようにカップ蓋本体に回転可能に連結され、前記飲みノズルはカップ蓋本体に対して回転して直飲口と吸飲口の位置を変え、直飲状態のとき、吸飲口は直飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転し、吸飲状態のとき、直飲口を吸飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転する。
【選択図】図３



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
飲みノズル付き出水口が設けられるカップ蓋本体と上蓋体を備え、前記飲みノズルには第１飲水通路と、ストローに接続するための第２飲水通路が仕切られて形成され、第１飲水通路の頂部に直飲口が形成され、第２飲水通路の頂部に吸飲口が形成され、前記上蓋体は直飲口と吸飲口を閉鎖するようにカップ蓋本体に回転可能に連結され、前記飲みノズルはカップ蓋本体に対して回転して直飲口と吸飲口の位置を変え、
直飲状態のとき、吸飲口は直飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転し、
吸飲状態のとき、直飲口を吸飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転する
ことを特徴とする回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項２】
前記飲みノズルは、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部から遠い側に傾斜するように設けられる
ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項３】
前記飲みノズルが出水口で３６０°任意に回転して直飲口と吸飲口の位置を変える
ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項４】
前記カップ蓋本体には頂部に前記出水口が形成された突起の出水管が固設され、前記飲みノズルは出水管に回転可能に穿設され、一部が出水口から突出し、前記上蓋体は連結フレームと連結フレームに回転可能に連結された回転蓋を備え、前記連結フレームはカップ蓋本体にピンを介して回転可能に連結され、連結フレームを反転すると回転蓋が出水管と重合し、回転蓋と出水管が螺合し、回転蓋が飲みノズル突出部の外部に覆い、直飲口と吸飲口を閉鎖する
ことを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項５】
前記飲みノズルの外周に環状の第１ストッパ溝が設けられ、前記出水管は飲みノズルの外側に嵌合し第１ストッパ溝の内部に係合し、第１ストッパ溝は出水管の上下両側にストッパされた上溝壁と下溝壁を有する
ことを特徴とする請求項４に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項６】
前記飲みノズルは弾性シリカゲル材質で一体成形され、出水管と密封嵌合している
ことを特徴とする請求項５に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項７】
前記飲みノズルは円柱形を呈し、前記飲みノズルの出水口から突き出した部分の外径は、出水口に隣接する一端から他端にかけて次第に小さくなる
ことを特徴とする請求項４に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項８】
前記飲みノズル内に貫通する通路が設けられ、通路内に仕切り板が設けられ、仕切り板は通路を第１飲水通路と第２飲水通路に仕切り、前記第２飲水通路はストローを接続するための円形を呈する下部通路と、前記下部通路より大きく上端に前記吸飲口が形成される上部通路を備え、上部通路と下部通路の間に段差が設けられる
ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項９】
前記回転蓋は、回転蓋本体と上蓋片を備え、回転蓋本体の頂部に内部と連通した貫通孔が開設され、前記上蓋片が貫通孔に固定され前記貫通孔を覆い、前記上蓋片の底部に凸状の挿入部が設けられ、飲みノズル内には第１飲水通路と第飲水通路の上方に連通路が形成さ

れ、回転蓋が出水管に接続するとき、飲みノズル頂部が上蓋片の底部に当接し、挿入部が連通路内に挿入されて位置決めをし、直飲口と吸飲口を閉鎖する
ことを特徴とする請求項６に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項１０】
前記カップ蓋本体はカップ本体の上端に接続され、前記ストローはカップ本体内に置かれ、ストローの上端は第２飲水通路の下端に接続されることを特徴とするカップ本体と、ストローと、
を備える
ことを特徴とする請求項１～９のいずれかに記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案はカップに関し、特に回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップに関する。
【背景技術】
【０００２】
カップは水の容器であるが、社会の進歩につれ、カップの種類が多様になってくる。よく見られるカップは直飲式カップとストロー式カップがある。直飲式カップは構造が簡単で、飲用が便利で、殆どの人の飲用習慣に合致する。しかし、一部の女性や子供にとって、直飲式カップの口部口径が大き過ぎ、水にむせやすく、ストロー式カップはむせにくく、女性や子供用に適している。様々なユーザーニーズに応えられるように、直飲式とストロー式という両方の飲み方を兼ね備えたカップを設計した。
【０００３】
例えば、中国実用新案ＣＮ２１６４５４４４９Ｕでは、カップ蓋本体、吸引ノズル、ストロー、第１可動蓋、第２可動蓋を備え、カップ本体頂面には溝が形成され、ノズル輪、ノズルカバー、プルリングとからなる第１可動蓋は前記溝に取り付けられ、ノズル輪は吸引ノズルを固定するために用いられ、吸引ノズルとストローは互いに連通し、ノズル輪の一端がカップ蓋本体に回転可能に連結され、ノズル輪の他端にノズルカバーが回転可能に連結され、ノズルカバーの尾部がプルリングに固定的に連結され、第２可動蓋の一端がカップ蓋本体に回転可能に連結され、第２可動蓋の他端に第１バックルが設けられ、第１バックルはカップ蓋本体縁辺の第１係止溝に係合して連結され、カップ蓋本体は第２可動蓋の下方に位置し、出水口が開設され、ストローを介した飲水時、ノズルカバーとノズル輪を上向きに開き、ノズルを溝から出して使用し、出水口を介した直飲時、第２可動蓋を開いて覆われていた出水口を露出して飲むことを特徴とする２ウェイカップ蓋が開示される。
【０００４】
上記のように、頂面に２種類の飲水口が設けられ、２つの方法によって蓋をめくって２種類の飲水口を区別する方式は、構造が複雑で、カップ蓋のデザイン難易度が高くなるほか、片方の飲水口の使用時、他方の飲水口による干渉を受け、ユーザー体験が低下し、飲水時の操作が不便になる可能性がある。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】中国実用新案第２１６４５４４４９号明細書
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００６】
上記のように、頂面に２種類の飲水口が設けられ、２つの方法によって蓋をめくって２種類の飲水口を区別する方式は、構造が複雑で、操作が不便である課題について、本考案

は回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップを開示する。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本考案は上記技術的問題点を解決するために、飲みノズル付き出水口が設けられるカップ蓋本体と上蓋体を備え、前記飲みノズルには第１飲水通路と、ストローに接続するための第２飲水通路が仕切られて形成され、第１飲水通路の頂部に直飲口が形成され、第２飲水通路の頂部に吸飲口が形成され、前記上蓋体は直飲口と吸飲口を閉鎖するようにカップ蓋本体に回転可能に連結され、前記飲みノズルはカップ蓋本体に対して回転して直飲口と吸飲口の位置を変えることができることを特徴とする回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップという技術的解決手段を採用している。
【０００８】
直飲状態のとき、吸飲口は直飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転する。
【０００９】
吸飲状態のとき、直飲口を吸飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転する。
【００１０】
本考案の一実施形態によれば、前記飲みノズルは、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部から遠い側に傾斜するように設けられる。
【００１１】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記飲みノズルが出水口で３６０°任意に回転して直飲口と吸飲口の位置を変えることである。
【００１２】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記カップ蓋本体には頂部に前記出水口が形成された突起の出水管が固設され、前記飲みノズルは出水管に回転可能に穿設され、一部が出水口から突出し、前記上蓋体は連結フレームと連結フレームに回転可能に連結された回転蓋を備え、前記連結フレームはカップ蓋本体にピンを介して回転可能に連結され、連結フレームを反転すると回転蓋が出水管と重合し、回転蓋と出水管が螺合し、回転蓋が飲みノズル突出部の外部に覆い、直飲口と吸飲口を閉鎖する。
【００１３】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記飲みノズルの外周に環状の第１ストッパ溝が設けられ、前記出水管は飲みノズルの外側に嵌合し第１ストッパ溝の内部に係合し、第１ストッパ溝は出水管の上下両側にストッパされた上溝壁と下溝壁を有する。
【００１４】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記飲みノズルが弾性シリカゲル材質で一体成形され、飲みノズルと出水管が密封嵌合する。
【００１５】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記飲みノズルは円柱形を呈し、前記飲みノズルの出水口から突き出した部分の外径は、出水口に隣接する一端から他端にかけて次第に小さくなる。
【００１６】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記飲みノズル内に貫通する通路が設けられ、通路内に仕切り板が設けられ、仕切り板は通路を第１飲水通路と第２飲水通路に仕切り、前記第２飲水通路はストローを接続するための円形を呈する下部通路と、前記下部通路より大きく上端に前記吸飲口が形成される上部通路を備え、上部通路と下部通路の間に段差が設けられる。
【００１７】
さらに、本考案の好ましい一実施形態によれば、前記回転蓋は、回転蓋本体と上蓋片を備え、回転蓋本体の頂部に内部と連通した貫通孔が開設され、前記上蓋片が貫通孔に固定され前記貫通孔を覆い、前記上蓋片の底部に凸状の挿入部が設けられ、飲みノズル内には

第１飲水通路と第飲水通路の上方に連通路が形成され、回転蓋が出水管に接続するとき、飲みノズル頂部が上蓋片の底部に当接し、挿入部が連通路内に挿入されて位置決めをし、直飲口と吸飲口を閉鎖する。

【００１８】

別の考案：前記カップ蓋本体はカップ本体の上端に接続され、前記ストローはカップ本体内に置かれ、ストローの上端は第２飲水通路の下端に接続されることを特徴とするカップ本体と、ストローと、を備えることを特徴とする回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。

【００１９】

従来技術に比べ、本考案のメリットは、飲みノズルによって出水口を直飲口と吸飲口に分け、ユーザの多様な飲み方に応えられると共に、構造が簡単で、カップ蓋本体の限られた面積に、直飲口と所定の距離を隔てた吸飲口を別途設置する必要がなく、カップ蓋の構造を簡略化し、カップ蓋の設計難度を下げ、そして使用時に飲みノズルを回転させることによって直飲口と吸飲口の位置を変えて飲みモードを切り替えることができ、使用したい口を前側に回転させ、飲用時に上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部による干渉を受けず、より快適な飲用体験に繋がる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

以下、添付図と実施形態を合わせて本考案をさらに説明するが、当業者であれば、これらの図面は好適な実施形態を説明する目的で描かれたものであり、それによって本考案の保護範囲を限定することに用いられるものではない。さらに、添付図は、別段の説明がない限り、説明対象の構成または構成を概念的に表すものにすぎず、誇張した図示が含まれる場合があるので、必ずしも比例的に描かれたわけではない。

【図１】カップ全体の断面模式図。

【図２】図１のＡ局部拡大図。

【図３】吸飲モードにあるカップ蓋の状態図。

【図４】直飲モードにあるカップ蓋の状態図。

【図５】飲みノズルの構造模式図。

【図６】飲みノズルとストローとの接続時の断面模式図。

【図７】図６のＢ局部拡大図。

【考案を実施するための形態】

【００２１】

以下、本考案の実施形態を添付図面を参照して詳細に説明する。当業者は、これらの説明は説明するための例示的なものであり、本考案の保護範囲に対する制限と解釈されるべきではないと認識すべきである。

【００２２】

なお、同様の記号は以下の添付図で同様の項目を表すため、ある項目が添付図で定義された後、後続の添付図ではそれ以上の定義と説明は行われない可能性がある。

【００２３】

カップ本体１の上端に接続されたカップ蓋本体３と上蓋体が設けられるカップ蓋４と、カップ本体１を備えるカップは図１－図７に示すようになる。

【００２４】

図１に示すように、カップ本体１の上端にはカップ口５が設けられ、カップ口５とカップ本体１の胴体の間には第１段差が設けられ、カップ口５の外面には第１雄ねじが設けられ、カップ蓋本体３の底部には開口が下向きの連結溝７が設けられ、連結溝７の溝壁には第１雄ねじと螺合する第１雌ねじが設けられ、カップ口５は連結溝７に挿入され、第１雌ねじが第１雄ねじに螺合されてカップ蓋本体３がカップ口５を覆うようになる。

【００２５】

連結溝７の上底には環状の嵌合溝１０が設けられ、嵌合溝１０にはシールリング９が内嵌され、カップ口５が連結溝７に挿入されて連結されると、カップ口５の上縁がシールリ

ング９に当接して密封嵌合される。

【００２６】

図２、図３に示すように、カップ蓋本体３の頂部にはカップ本体１内に連通する出水口３７が設けられ、出水口３７には飲みノズル２６が設けられ、飲みノズル２６内には第１飲水通路３１とストロー２に接続するための第２飲水通路３２が仕切られて形成され、第１飲水通路３１の頂部には直飲水口２９が形成され、第２飲水通路３２の頂部には吸飲口２８が形成され、ストロー２はカップ本体１内に設けられ、ストロー２の上端は第２飲水通路３２に接続され、上蓋体はカップ蓋本体３に回転可能に連結され、直飲口２９と吸飲口２８を閉鎖するように使用され、飲みノズル２６はカップ蓋本体３に対し回転して直飲口２９と吸飲口２８の位置を変えることができる。

【００２７】

上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部側をカップ本体１の後側と定義する。

【００２８】

図４に示すように、直飲状態のとき、吸飲口２８が直飲口２９と、上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部との間の位置まで回転し、このとき直飲口２９は吸飲口２８の前側に位置し、上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部は吸飲口２８の後側に位置し、ユーザは直飲口２９を介して直接飲む。

【００２９】

図３に示すように、吸飲状態のとき、直飲口２９が吸飲口２８と、上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部との間の位置まで回転し、このとき吸飲口２８は直飲口２９の前側に位置し、上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部は直飲口２９の後側に位置し、ユーザは吸飲口２８を介して水を吸い出す。吸飲状態のとき、直飲口２９は通気口として吸飲時の通気に用いられる。

【００３０】

本考案は、飲みノズル２６によって出水口３７を直飲口２９と吸飲口２８に分け、ユーザの多様な飲み方に応えられると共に、構造が簡単で、カップ蓋本体３の限られた面積に、直飲口２９と所定の距離を隔てた吸飲口２８を別途設置する必要がなく、カップ蓋４の構造を簡略化し、カップ蓋４の設計難度を下げ、そして使用時に飲みノズル２６を回転させることによって直飲口２９と吸飲口２８の位置を変えて飲みモードを切り替えることができ、使用したい口を前側に回転させ、飲用時に上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部による干渉を受けず、より快適な飲用体験に繋がる。

【００３１】

直飲口２９と吸飲口２８との間には仕切り部が設けられ、飲みノズル２６を吸飲状態または直飲状態から９０°回転させ、直飲口２９と吸飲口２８を左右に分布させることができる。このとき仕切り部の両端を結ぶ線は上蓋体の回転中心線に垂直または略垂直になり、ユーザはカップを斜めにしながら直飲口２９または吸飲口２８のうちどちらか一方を介して水を飲むことができる。

【００３２】

本考案の好ましい一実施形態によれば、飲みノズル２６が出水口３７で３６０°任意に回転して直飲口２９と吸飲口２８の位置を変えることである。

【００３３】

飲みノズル２６は、上蓋体とカップ蓋本体３の回転接続部から遠い側に傾斜するように設けられ、前側に傾斜した飲みノズル２６はユーザの飲みやすさに寄与する。

【００３４】

図２に示すように、カップ蓋本体３には突起した出水管１９が固設され、出水管１９の頂部に出水口３７が形成され、出水管１９には飲みノズル２６が回転可能に穿設され、出水口３７から部分的に突出し、出水管１９は前側に傾斜し、それによって出水管１９に装着された飲みノズル２６が傾斜する。

【００３５】

飲みノズル２６は円柱形を呈し、飲みノズル２６の出水口３７から突き出した部分の外

径は、出水口３７に隣接する一端から他端にかけて次第に小さくなり、ユーザの使用に便利である。

【００３６】

図２、図６、図７に示すように、飲みノズル２６の外周に環状の第１ストッパ溝１８が設けられ、出水管１９は飲みノズル２６の外側に嵌合し第１ストッパ溝１８の内部に係合し、第１ストッパ溝１８は出水管１９の上下両側にストッパされた上溝壁と下溝壁を有し、出水管１９に飲水ノズル２６をストッパして回転させ、飲水ノズル２６が出水管１９から脱出しにくいように構成されている。

【００３７】

飲みノズル２６は弾性シリカゲル材質で一体成形され、出水管１９と密封嵌合している。弾性シリカゲル材質の飲みノズル２６は力を受けると弾性変形し、飲みノズル２６の着脱と洗浄が容易になる。また、シリカゲル素材の飲みノズル２６と出水管１９が締まりばめで嵌合しているため、飲みノズル２６と出水管１９との間にシールリングなしでも密封嵌合が可能であり、シリカゲル素材の飲みノズル２６と人間の口との接触がより肌にやさしい。

【００３８】

図７に示すように、飲みノズル２６内には貫通する通路が設けられ、通路内には仕切り板３６が設けられ、仕切り板３６は通路を第１飲水通路３１と第２飲水通路３２に仕切り、第２飲水通路３２は下部通路３３と上部通路３５を備え、上部通路３５は下部通路３３の上端に接続し、下部通路３３はストロー２を接続する円形を呈し、上部通路３５は下部通路３３より大きく、上部通路３５と下部通路３３との間には第２段差３４が設けられ、上部通路３５の上端には吸飲口２８が形成され、上部通路３５は下部通路３３の上方に口広の形で設けられ、ユーザによる吸飲時に吸飲口２８から水が出やすくなり、下部通路３３はストロー２との接続が容易になっている。仕切り板３６は上記の仕切り部である。

【００３９】

ストロー２の外壁には外環縁６が設けられ、外環縁６はストロー２の上端に隣接して設けられ、ストロー２の上端は下部通路３３内に挿入されて下部通路３３の内壁に締まりばめで嵌合され、外環縁６は下部通路３３の下端縁辺に当接する。

【００４０】

上蓋体は連結フレーム１１と連結フレーム１１に回転可能に連結された回転蓋２７から成り、連結フレーム１１はピン８を介してカップ蓋本体３に回転可能に連結され、連結フレーム１１を反転させると回転蓋２７が出水管１９と重合し、回転蓋２７と出水管１９が螺合し、回転蓋２７は飲みノズル２６の出水口３７から突き出した部分の外側を覆い、直飲み口２９と吸飲口２８を閉鎖する。

【００４１】

図２に示すように、回転蓋２７の側壁には、回転蓋２７の下端に隣接して設けられた環状の第２ストッパ溝１７が設けられ、連結フレーム１１のピン８から遠い一端には内壁に第１環状係合縁１３が設けられる第１貫通孔１４が開設され、回転蓋２７の下端は第１貫通孔１４に回転可能に挿入され、第１環状係合縁１３は第２ストッパ溝１７に係止され、それによって回転蓋２７が連結フレーム１１に回転可能に連結される。

【００４２】

具体的には、回転蓋２７の側壁には、上リミットストッパ１５と下リミットストッパ１６が設けられ、上リミットストッパ１５と下リミットストッパ１６の間には、第２ストッパ溝１７が形成され、第１環状係合縁１３は、第１貫通孔１４の内壁上端に設けられる。

【００４３】

回転蓋２７は、回転蓋本体１２と上蓋片２４を備え、回転蓋本体１２の頂部に内部と連通した第２貫通孔２１が開設され、上蓋片２４が第２貫通孔に固定され第２貫通孔２１を覆い、上蓋片２４の底部に凸状の挿入部３８が設けられ、飲みノズル２６内には第１飲水通路３１と第２飲水通路３２の上方に連通路３０が形成され、回転蓋２７が出水管１９に接続するとき、飲みノズル２６は回転蓋２７内に挿入され、飲みノズル２６の頂部が上蓋

片２４の底部に当接するとともに、挿入部３８が連通路３０内に挿入されて位置決めされる。飲みノズル２６はシリカゲルから成るため、飲みノズル２６の先端縁は上蓋片２４に突き当てられて密封接続され、直飲口２９と吸飲口２８を閉鎖し、シールリングは不要である。

【００４４】

上蓋片２４の外周には、第１環状突縁２３と第２第１環状突縁２０が設けられ、第１第１環状突縁２３と第２第１環状突縁２０の間には環状係止溝２５が形成され、上蓋片２４は第２貫通孔２１に貫通され、第２貫通孔２１の一端縁部は環状係止溝２５内に挿入され、上蓋片２４を第２貫通孔２１内に固定して第２貫通孔２１を閉鎖する。

【００４５】

挿入部３８は、連通路３０内に挿入されて飲みノズル２６を位置決めし、飲みノズル２６に生じた歪みによる密封効果への影響を与えないように、飲みノズル２６の頂部を上蓋片２４に接触させて押圧する。

【００４６】

前記仕切り板３６の高さは、飲みノズル２６の上端縁よりも低く、通路の上端には第１飲水通路３１と第２飲水通路３２を連通する連通路３０が形成される。

【００４７】

蓋本体１２の頂部には収容溝２２が設けられ、上部に位置する第１環状突縁２３が収容溝２２内に収容され、見栄え向上に寄与する。

【００４８】

上蓋体の閉蓋時、連結フレーム１１が下向きに反転するにつれ、旋回蓋２７が出水管１９に対向する位置まで回転し、旋回蓋２７を回転させて旋回蓋２７を出水管１９の外側に螺合させ、そのとき出水口３７から突き出した飲みノズル２６の一部が旋回蓋２７内に挿入し、飲みノズル２６の頂部が上蓋片２４に当接し、直飲口２９と吸飲口２８を閉鎖する。

【００４９】

飲水時、旋回蓋２７を逆方向に出水管１９から回して降ろし、連結フレーム１１を上向きに反転して旋回蓋２７を出水管１９から遠ざけ飲みノズル２６を露出して水を飲む。

【００５０】

以上、本考案で開示する回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップについて説明したが、本稿では具体的な例を用いて本考案の原理及び実施形態について述べたが、上記実施形態の説明は本考案及び核心思想への理解を支援するためにのみ用いられる。明言することとして、同技術分野の一般的な技術者は、本考案の創造構想を逸脱することなく、本考案の範囲内で種々の変形や改良が可能であり、そのような変形や改良も又、本考案の保護範囲内に含まれるものであることは、言うまでもない。

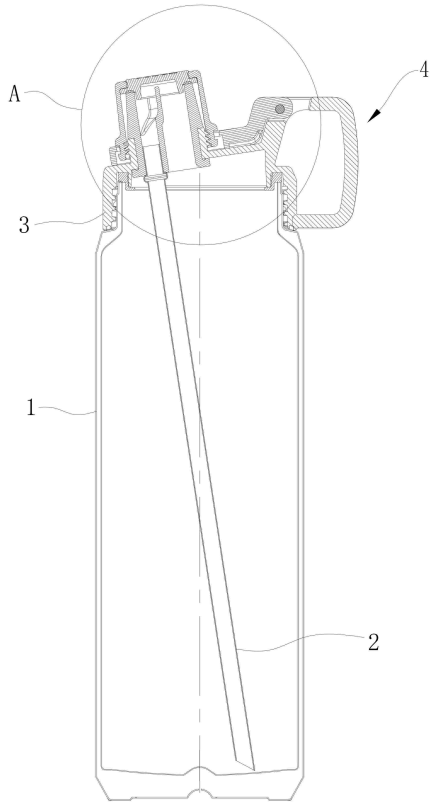
【符号の説明】

【００５１】

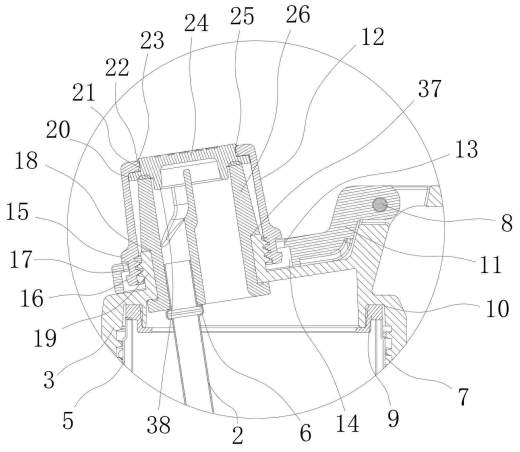
図中：１．カップ本体、２．ストロー、３．カップ蓋本体、４．カップ蓋、５．カップ口、６．外輪縁、７．接続溝、８．ピン、９．シールリング、１０．嵌溝、１１．連結フレーム、１２．回転蓋本体、１３．第１環状係合縁、１４．第１貫通孔、１５．上リミットストッパ、１６．下リミットストッパ、１７．第２ストッパ溝、１８．第１ストッパ溝、１９．出水管、２０．第２環状突縁、２１．第２貫通孔、２２．収容溝、２３．第１環状突縁、２４．上蓋片、２５．環状係止溝、２６．飲みノズル、２７．回転蓋、２８．吸飲口、２９．直飲口、３０．連通路、３１．第１飲水通路、３２．第２飲水通路、３３．下部通路、３４．第２段差、３５．上部通路、３６．仕切板、３７．出水口、３８．挿入部。

【図面】

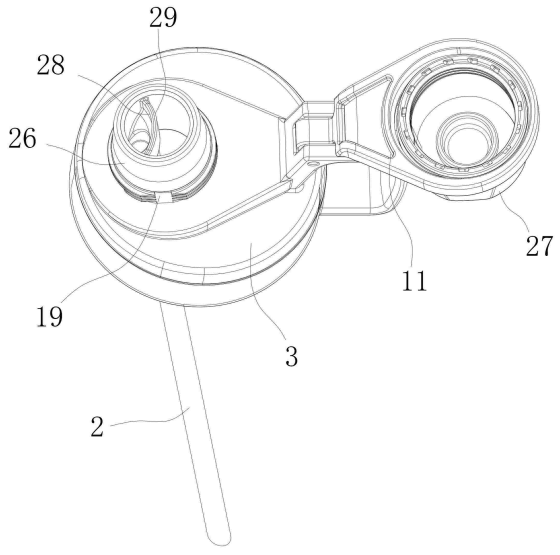
【図１】


A
4
3
1
2

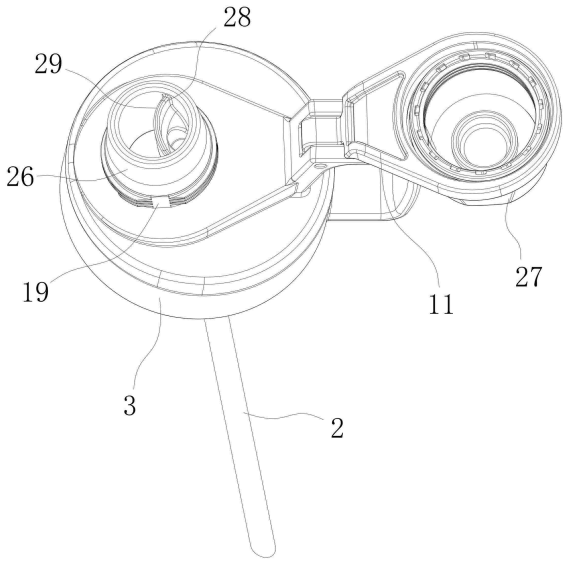
【図２】


24
25
26
23
12
22
21
37
20
13
18
15
8
17
11
16
10
19
3
7
5
38
2
6
14
9

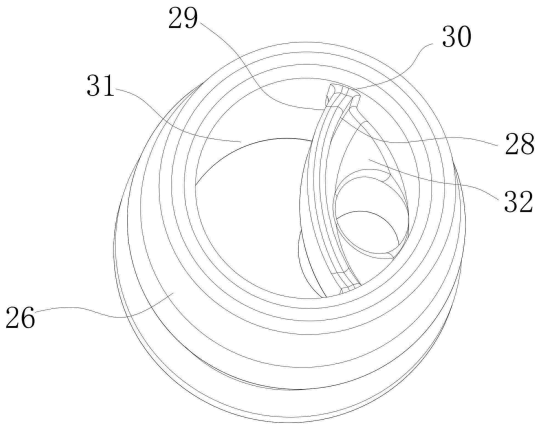
【図３】


29
28
26
27
11
19
3
2

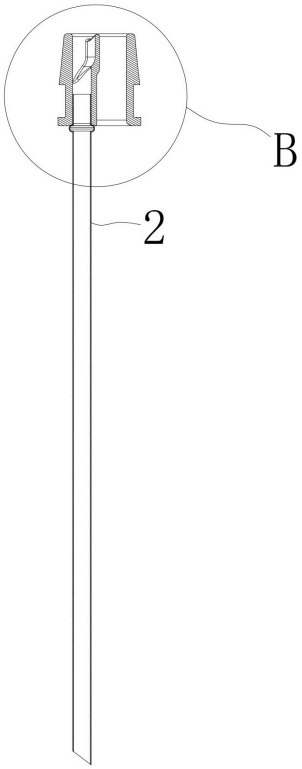
【図４】


28
29
26
27
19
11
3
2

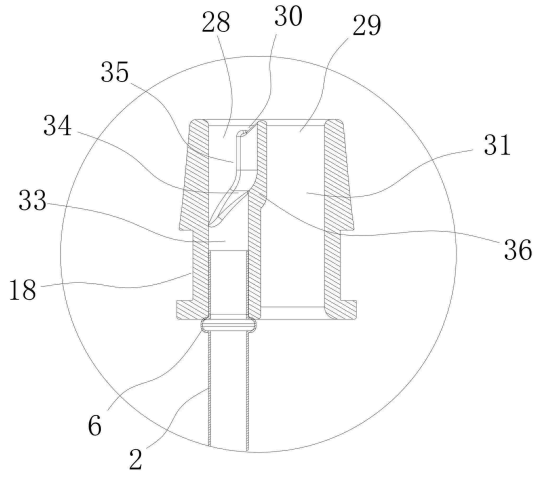
【図５】



【図６】



【図７】



【手続補正書】
【提出日】令和７年２月６日(２０２５.２.６)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
飲みノズル付き出水口が設けられるカップ蓋本体と上蓋体を備え、前記飲みノズルには第１飲水通路と、ストローに接続するための第２飲水通路が仕切られて形成され、第１飲水通路の頂部に直飲口が形成され、第２飲水通路の頂部に吸飲口が形成され、前記上蓋体は直飲口と吸飲口を閉鎖するようにカップ蓋本体に回転可能に連結され、前記飲みノズルはカップ蓋本体に対して回転して直飲口と吸飲口の位置を変え、
直飲状態のとき、吸飲口は直飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転し、
吸飲状態のとき、直飲口を吸飲口と、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部との間の位置まで回転する
ことを特徴とする回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項２】
前記飲みノズルは、上蓋体とカップ蓋本体の回転接続部から遠い側に傾斜するように設けられる
ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項３】
前記飲みノズルが出水口で３６０°任意に回転して直飲口と吸飲口の位置を変える
ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項４】
前記カップ蓋本体には頂部に前記出水口が形成された突起の出水管が固設され、前記飲みノズルは出水管に回転可能に穿設され、一部が出水口から突出し、前記上蓋体は連結フレームと連結フレームに回転可能に連結された回転蓋を備え、前記連結フレームはカップ蓋本体にピンを介して回転可能に連結され、連結フレームを反転すると回転蓋が出水管と重合し、回転蓋と出水管が螺合し、回転蓋が飲みノズル突出部の外部に覆い、直飲口と吸飲口を閉鎖する
ことを特徴とする請求項１～３のいずれかに記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項５】
前記飲みノズルの外周に環状の第１ストッパ溝が設けられ、前記出水管は飲みノズルの外側に嵌合し第１ストッパ溝の内部に係合し、第１ストッパ溝は出水管の上下両側にストッパされた上溝壁と下溝壁を有する
ことを特徴とする請求項４に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項６】
前記飲みノズルは弾性シリカゲル材質で一体成形され、出水管と密封嵌合している
ことを特徴とする請求項５に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項７】
前記飲みノズルは円柱形を呈し、前記飲みノズルの出水口から突き出した部分の外径は、出水口に隣接する一端から他端にかけて次第に小さくなる
ことを特徴とする請求項４に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項８】
前記飲みノズル内に貫通する通路が設けられ、通路内に仕切り板が設けられ、仕切り板は通路を第１飲水通路と第２飲水通路に仕切り、前記第２飲水通路はストローを接続する

ための円形を呈する下部通路と、前記下部通路より大きく上端に前記吸飲口が形成される上部通路を備え、上部通路と下部通路の間に段差が設けられる
　ことを特徴とする請求項１に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項９】
前記回転蓋は、回転蓋本体と上蓋片を備え、回転蓋本体の頂部に内部と連通した貫通孔が開設され、前記上蓋片が貫通孔に固定され前記貫通孔を覆い、前記上蓋片の底部に凸状の挿入部が設けられ、飲みノズル内には第１飲水通路と第飲水通路の上方に連通路が形成され、回転蓋が出水管に接続するとき、飲みノズル頂部が上蓋片の底部に当接し、挿入部が連通路内に挿入されて位置決めをし、直飲口と吸飲口を閉鎖する
　ことを特徴とする請求項６に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。
【請求項１０】
　前記カップ蓋本体はカップ本体の上端に接続され、前記ストローはカップ本体内に置かれ、ストローの上端は第２飲水通路の下端に接続されることを特徴とするカップ本体と、ストローと、
　を備える
　ことを特徴とする請求項４に記載の回転による飲み方切替可能な２ウェイ蓋とカップ。

フロントページの続き

弁理士　田中 将隆
(72)考案者　陳醒宇
中国浙江省武義県熟渓街道江南明珠１幢１単元５０２室